

HIV 受検勧奨のための性産業従事者や事業者等に対する 効果的な介入に向けた研究

研究代表者 今村 颯史（東京都立駒込病院 感染症科 部長）
研究分担者 塩野 徳史（大阪青山大学 健康科学部看護学科 准教授）
青山 薫（神戸大学 大学院国際文化学研究科 教授）

研究要旨

近年、梅毒の増加が続いており、特に性産業に従事する女性の増加が問題となっている。現代の性産業は SNS の普及とともに多様化してきていることで、性感染症のハイリスク層であるが、正しい知識や情報にスムーズにアクセスできる環境にない性産業の従事者への効果的な受検勧奨と予防啓発が喫緊の課題である。

各分担研究では、女性、トランスジェンダー、外国人の SW を対象とする調査により、多様化・複雑化している性産業の実態を明らかにする。さらに、検査や予防行動に影響する就労環境の調査も行うことで、当事者にとって利用しやすい、予防行動や受検勧奨につながる啓発方法を検討する。また分担研究「流行する性感染症に対する効果的な介入と評価」では、各分担研究で得られる情報をもとに、梅毒等の性感染症に対する効果的な啓発プログラム開発を目指した。

女性の SW の研究では初年度と最終年度にベースライン調査とフォローアップ調査を行い、セックスワークにおける普及啓発の状況を明らかにした。調査方法は予防啓発に関わりのない A 社が保有するアンケートモニター登録者を対象に、居住地と年齢で 2 段層化抽出を用いて、成人女性を対象にスクリーニング調査を実施し、5 年以内に相手からお金をもらって性交渉をしたことがある人に本調査を実施し分析対象とした。

トランスジェンダーの SW の研究では、質問紙調査やインタビュー調査を通じて、TG-SW の置かれている状況を把握するとともに、啓発を進めていくための協力体制を構築しながら啓発介入を実施し、その全体の動きを一つのモデルケースとして提示した。研究期間を通じ、啓発用資材（冊子とリーフレット）を製作、配布した。また、トランスジェンダー向けのイベント、勉強会を開催するとともに、同様なイベント開催に協力した。調査としては、2021 年 2 月 17 日～3 月 11 日に WEB 質問紙調査を実施し、2020・2021 年度は TG-SW 当事者にインタビューを行った。

外国人 SW の研究は、2020 年度は、COVID-19 流行の影響で調査研究ができなかった。2021 年度は、多言語・多文化に渡る調査を可能にするため、分担研究者が現在別途実施している性取引に関する国際共同研究からも知見を得て、1) 聞き取りについて基礎質問項目と「調査協力をお願い」を多言語に翻訳し、2) ネットワーク分析について当事者と雇用者等から得た人間関係情報を図式化するソシオグラム調査法を行った。また、3) アウトリーチ活動を行い、横浜伊勢崎の 1 人と大阪十三の 1 人の聞き取りに対し、解釈・分析を行った。2022 年度には、神戸と新宿におけるアウトリーチを経て、東京新宿で街頭に立つ 5 人の外国人 SW から記録を残す聞き取りを行った。

流行する性感染症に関する研究では、性産業従事者の支援団体と協力して SW 向けポータルサイトのコンテンツを作成し、セクシャルヘルスにかかる知識・情報等について、SW のインタビュー動画や記事を作成した。SNS を中心に広報展開し、インフルエンサーからも情報発信してもらうなど、啓発のためのネットワーク構築を進めている。また、若者向けに性感染症・梅毒啓発ページを作成し、「HIV 検査・相談マップ」のサイトに、梅毒啓発動画とともに掲載した。

A.研究目的

本研究班においては以下の分担研究が計画された。

【研究1】女性のSWに対する予防啓発及び効果評価

女性のSWを対象に質問紙調査を実施し、検査行動（定期受検の有無、郵送検査の有無）や予防行動に影響する就労環境についてベースライン調査を実施する。実施方法は、①twitterなどのSNSによる当事者のソーシャルネットワークを活用した無記名自記式のインターネット調査、A社に登録しているモニターを対象に現在セックスワークに従事している女性を対象にしたパネル調査等を検討する。2年度目以降はモニタリング調査及び効果評価また、支援団体と協働した意見交換のためのネットワークミーティングを開催し、女性のSWを取り巻く環境を踏まえ、セックスワークに関するスティグマやHIV感染症・性感感染症に対するスティグマの低減を目指し、予防啓発介入を行う。それとともに、当事者が利用しやすい環境でのHIV検査の受検機会を提供し、受検者にとって利便性の高い検査機会の確立を目指す。その効果評価としてのモニタリング調査を実施する。

【研究2】トランスジェンダーのSWに対する効果的な介入方法

トランスジェンダーのSWに対する効果的な介入方法について検討する。トランスジェンダーについては、日本では十分に現状把握がされておらず、MSMへの支援と比べて支援体制も整っていない不安定な環境にあることを十分に踏まえる必要がある。

先行研究のデータ及び追加調査を基に、数回のミーティングを通してトランスジェンダーへの効果的な予防啓発、情報提供方法について検討する。トランスジェンダーに対するオンライン調査実施した結果を分析し、その報告書の作成や当事者間での情報交換イベン

トの実施、セクシュアル情報等を掲載したリーフレットの作成等を行う。

【研究3】外国人SWの現状調査と効果的な介入方法

本研究は、日本在留の「外国人SW」とその雇用者等を対象に実効性の高いHIV・STI受検勧奨の介入方法の検討をめざす。性取引に携り「脱法／不法就労・在留者」とされる人々、人身取引対策等によって「被害者」とされる人々両方への詳細な聞き取り調査（3年間で20人）を実施する。2年度目以降は、当事者と性風俗産業をつなぐ仲介者あるいは人身取引トラフィッカーの関係を中心とするネットワーク分析（当事者20人と雇用者等から得たSNS等の記録を基礎データとする）を行う。これらによって、3年度目には一般的に仕事の好条件に結びつく関係をモデル化し、これに保健行動を流し込むことと、悪条件を改善する条件を探り、検査受検への誘導を目指す。対象地は首都圏と関西圏で、主に中国、韓国、フィリピン、タイ出身者を対象にする。研究者が現在実施しているグローバル性取引の研究と連携し、関係各地・国の支援者・研究者等にも協力を仰ぐ。

本研究では、「エステ店」と街頭を対象にアウトリーチを実施し、現在日本で働いている外国人SWの少数にアクセスを得た。そして、この人たちに半構造化インタビューを行うことで、言説データとネットワークデータを得、これらの質的解釈と分析から、この人たちがどのようなネットワークの中にあり、どのような社会資源にアクセスできているのかを具体的に明らかにした。さらに、具体例を基礎に、脆弱性を克服するようなネットワークへの接続あるいは変換の理路をモデル化し、最終的に、外国人SWとその雇用者・関係者を対象に、実効性の高いHIV/STI予防奨励と受検勧奨に向けた介入方法を検討した。

【研究4】流行する性感染症に対する効果的な介入と評価

本研究では、流行する性感染症に対するハイリスク層への効果的な介入方法を検討する。

現在、流行している COVID-19 の性産業自体への影響、検査受検の状況、梅毒の発生動向等を分析し、総合的な啓発へ繋げていく。

初年度から2年度目にかけて、性産業従事者に影響力のある複数のインフルエンサーと連携しながら、啓発のためのネットワーク構築をすすめる。さらに、ホームページ、動画、複数の SNS などを利用した、知識認知や受検動機づけにつながる現代型の啓発プログラム開発を行う。2年度目以降は、新たな啓発プログラムを利用して、梅毒等の性感染症の啓発を集中的に実施する。その効果については、SNS やホームページのアクセス評価、性産業従事者へのアンケート調査、疫学調査など、複数の手法による評価を行う。

さらに郵送検査、保健所検査、性感染症診療クリニックの利用に関する実態調査を検討する。3年度目には、検査体制へのアクセス改善、対象地域を選定して性感染症診療クリニックとの連携モデルの構築を検討する。

また、各対象者の現状やニーズに合わせた啓発プログラムをまとめ、HIV・性感染症の検査ガイドライン作成に向けた検討を行う。それらにより、より効果的な介入と検査機会の拡大に向けた提言を目指す。

(倫理面への配慮)

厚労省・文科省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従って全ての研究を行う。また、現場の従事者にインタビュー等を行う際には、プライバシーの保護に配慮するとともに、偏見差別のない接遇に心がける。そして、得られた情報については、社会的な影響も考慮して慎重に扱い、対象者への迅速な還元を努める。

3. 研究結果

詳細は、各分担研究報告書を参照

【研究1】女性の SW に対する予防啓発及び効果評価

初年度と最終年度にベースライン調査とフォローアップ調査を行い、セックスワークにおける普及啓発の状況を明らかにした。調査方法は予防啓発に関わりのない A 社が保有するアンケートモニター登録者を対象に、居住地と年齢で2段階化抽出を用いて、成人女性を対象にスクリーニング調査を実施し、5年以内に相手からお金をもらって性交渉をしたことがある人に本調査を実施し分析対象とした。

本研究では集団の偏りや、自記式回答であることなど限界はあるものの、3年間の研究で、以下のことが明らかとなった。成人女性の4.4%から5.6%がセックスワークを経験している可能性があり、MSM 集団とほぼ同程度の規模である。また本研究の結果では初年度と比較して、コロナ禍を経て風俗形態にインターネットの活用が加わり、急速に拡大している可能性が示唆される。

検査行動については2013年から比べると上昇しており、この3年間で SWASH の活動やホームページの啓発活動が普及していることも示唆された。予防行動と普及啓発の関連については判断するには、横断調査であるため限界も大きいですが、対象となった集団がほぼ同様の属性を示しており、経年的な状況を示すデータとして考えることは可能である。セックスワークの時期別の分析では、本年度は初年度と比べても過去6ヶ月間～1年間に従事した層で、予防啓発の普及がみられたことも3年間の継続的な活動が効果を上げていると思われる。

一方で PrEP の利用割合が MSM の先行研究と比べても増加していることが懸念される。またコロナ禍を契機にセックスワークの形態の主流は変化しつつあり、新規参入の可能性も示唆される。セックスワーク従事者には、個

別にさまざまな背景を抱えており、産業そのものの是非はあるにしても、その機能には社会のセーフティネットの側面があった。しかし、この機能が喪失し始めており、今後は医療者と当事者が協働できる体制を構築しつつ、感染予防のリスクを低減しつつ、従事環境を整備していく必要がある。

本研究班で SWASH が制作し普及している「赤い傘」のホームページもインターネットを活用したものであり、インターネットでサービスを提供し始めている層では認知割合が高かった。コロナ禍を契機に始めた人でも、コロナ禍以前に始めていた人と比べ、その認知割合に有意差はなく、効果的に機能しつつあると言える。そのため、セックスワークの予防対策には、インターネット上でも、背負っている当事者を巻き込みつつ、組織化するというよりも、緩やかなネットワークを形成することが有効な対策になると考えられる。

【研究2】トランスジェンダーの SW に対する効果的な介入方法

本研究は、トランスジェンダーのセックスワーカー（以下、TG-SW）を対象に、以下を実現していくための環境づくりを目的としている。・HIV など性感染症に関する情報が入手できる ・新しい情報に基づき、性感染症に関する予防方法を自ら選択実行できる ・HIV など性感染症の可能性があったとき、安心して検査を受けられる

・HIV など性感染症に感染したときに、安心して治療につながる事ができる。

その目的達成に向けて、質問紙調査やインタビュー調査を通じて、TG-SW の置かれている状況を把握するとともに、啓発を進めていくための協力体制を構築しながら啓発介入を実施し、その全体の動きを一つのモデルケースとして提示した。

研究期間を通じ、啓発用資材（冊子とリーフレット）を製作、配布した。また、トランスジェンダー向けのイベント、勉強会を開催するとともに、同様なイベント開催に協力した。調査としては、2021

年2月17日～3月11日に WEB 質問紙調査を実施し、R2-3 年度は TG-SW 当事者にインタビューを行った。

質問紙調査からは、HIV 検査を受けられる場所に関する重要な情報や U=U、PrEP といった比較的新しい情報がトランスジェンダーに十分に行き渡っていないことが明らかになった。検査行動に関しては、セックスワーク経験者では、HIV 検査、性感染症検査の受検率が高かった。

インタビュー調査では、これまでの調査でも指摘してきたことではあるが、トランスジェンダーの多様性が改めて示されると同時に、性行為の内容や感染症予防、HIV を含めた性感染症の検査、接客における経験などには店の方針等が影響していることが確認された。

こうした状況の中、トランスジェンダー当事者が参加し啓発資材を製作したことの意義は大きい。だが、質問紙調査、インタビュー調査いずれからも、TG の多様性が示されている中、その多様性を意識したさらに様々な啓発資材が必要である。イベント開催は、こうした情報を広く流通させるために重要な役割を持つと思われるこれまで十分に啓発対象とされたなかった層に情報が行き届くには時間がかかることから、長く啓発がおこなわれていく体制が必要と言えるだろう。

【研究3】外国人 SW の現状調査と効果的な介入方法

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症渦の影響で調査研究をすることができなかった。

2021 年度は、多言語・多文化に渡る調査を可能にするため、分担研究者が現在別途実施している性取引に関する国際共同研究からも知見を得て、1) 聞き取りについて基礎質問項目と「調査協力をお願い」を多言語に翻訳し、2) ネットワーク分析について当事者と雇用者等から得た人間関係情報を図式化するソシオグラム調査法を獲得した。また、3) アウトリーチ活動を行い、パイロットケースとして横浜伊勢崎の1人と大阪十三の1人の聞き取り

に対し解釈・分析を行った。

2022年度には、神戸と新宿におけるアウトリーチを経て、東京新宿で街頭に立つ5人の外国人SWから記録を残す聞き取りを得た。そして、このデータをもとに、聞き取りの言説解釈およびネットワーク分析を行った。これらの結果から、本分担研究は、HIV/STI 予防奨励と受検勧奨の要は、「日本人の配偶者等」の資格をもって滞在している外国人SWである、と結論づけた。

【研究4】流行する性感染症に対する効果的な介入と評価

性産業従事者の支援団体と協力し、初年度はホームページ、複数のSNSなどを利用した知識の認知や受検動機づけにつながる新たな啓発プログラムを利用して、梅毒等の性感染症の啓発を集中的に実施した。2-3年度目は、性産業従事者の支援団体と協力してSW向けポータルサイトを開設し、HIVや梅毒などの性感染症や、SWの性の健康への関心を高め、セクシャルヘルスにかかる知識・情報等について、コンテンツを充実した。SWのインタビュー動画や記事を掲載した。そしてSNSを中心に広報展開し、インフルエンサーからも情報発信してもらうなど、啓発のためのネットワーク構築を進めた。

また、若者向けの性感染症・梅毒啓発ページを作成し、梅毒啓発動画とともに「HIV検査・相談マップ」のサイトに掲載した。

その効果については、SNSやホームページのアクセス評価、性産業従事者へのアンケート調査等の複数の手法による評価を行った。

さらに、郵送検査、保健所検査、性感染症診療クリニックの利用に関する実態調査の実施について検討を行い、最終年度には、HIV・性感染症の検査ガイドライン作成に向けた検討を行った。

D. 考察

近年は、梅毒の流行が深刻な状況となっており、若い女性における報告数の増加が大きな問題となっている。そして、現代の日本においても、HIV感染と同じ性感染症が、異性間でも急増する環境が明らかとなったことで、今後の受検勧奨法についても再検討することが求められている。その一方で、女性が従事する性産業の形態は急速に複雑化・多様化しており、一般市民の性サービスに対する意識や行動も大きく変化してきている。したがって、潜在的なハイリスク層への感染拡大を防ぐためには、早期に実態を把握するための調査を行い、よりリスクの高い対象者への受検勧奨と予防啓発を行うことが、我が国のHIV感染症を含む性感染症対策における重要な課題となっている。

女性の性産業従事者へのアンケート調査や、より感染リスクの高いMSMやトランスジェンダーの性産業従事者への調査など多角的な研究を実施しており。本研究によって、時代とともに変化している現代の性産業の実態を明らかにし、自治体の担当者とも連携して、その多様性・複雑性に合ったより効果的な啓発・受検勧奨法の立案につながっていくことが、今後、期待される。さらに当事者ネットワークの構築とともに、ホームページや複数のSNSを利用して実施される新たな啓発プログラムは、評価と改善を繰り返すことで、流行する性感染症の制御へ向けて寄与していくことが期待される。

E. 結論

HIV、梅毒の流行状況を踏まえ、各疾患の罹患リスクの高い対象者の多様性に合わせた受検勧奨が必要であり、女性のSWの仕事場が、非店舗型が多くなっていることから、予防啓発、受検勧奨について、アクセスしやすいインターネットやSNSなど現代型の広報ツールによる対応が重要となってくる。

また、トランスジェンダーSWには、予防情報の浸透が不十分なため、対象となる層へ届ける

ためのアウトリーチの開発、予防情報の普及が不可欠であり、実施にあたっては当事者の多様性に配慮した更なる検討が必要となる。多くのトランス当事者が集まるイベントでの情報普及は、必要だが未到達な情報を広く流通させるために重要な役割を持つと思われる。これまで十分に啓発対象とされなかった層に情報が行き届くには時間がかかることから、長く啓発がおこなわれていく体制が必要と言える。

各分担研究の調査では、ハイリスク層における現代の性産業の実態を明らかにし、その多様性・複雑性に合った効果的な介入と検査機会の拡大へ向けた提言が必要で。さらに、これらの研究によって得られる情報や、現在流行しているCOVID-19の性産業自体への影響、検査受検の状況、梅毒の発生動向等を踏まえた総合的な性感染症に対する効果的な啓発プログラム開発も進めていく。当事者ネットワークの構築とともに、ホームページや複数のSNSを利用して実施される新たな啓発プログラムは、評価と改善を繰り返すことで、流行する性感染症の制御へ向けて寄与していくことが期待される

F.健康危険情報

なし

G.研究発表等

各分担研究者の報告内に掲載

H.知的所有権の出願・登録状況（予定を含む）

なし